

七五三詣

昔は、七才までは神の子とって幼児が亡くなるが多かったので、数え三才を「髪置」といい男女ともにお祝いし 五才は「袴着」といって男子のみ お祝いし 七才は「帯解」といって女子のみ お祝いします。11月15日前後に氏神様にお祈りして、それまでの御加護を感謝し今後の成育を願います。

この神事は、1681年11月15日に徳川家が始めたことが起源とも言われています。千歳飴は、千寿の願いを込めて細く長く作り、袋には鶴亀などの縁起の良い絵柄が入っています。

おわりに

戦後の行きすぎた個人主義により、日本心の持つ美しい共同体意識は失われつつありますが、被災された皆さんが毅然として助け合う、又、自衛隊・警察・消防・地方自治体の献身的な姿を見て、個人を超えて助け合う「絆」を大切に作る心が失われていない、この心は今後も伝えていかなければならないと思っています。わが国では人間が特別な存在でなく自然の一部である、森羅万象に神が宿ると考え、八百万の神や祖霊を篤くまつり暮らししてきました。

その基にある神道の心は、浄明正直を旨として生活するという事にあります。

ロータリークラブは四つのテストというものがあります。ロータリークラブを突き詰めて行けば、浄明正直の心を持って生きるという事であろうと私は思います。お話の機会を与えて頂いたことに鈴木会長以下、会長をはじめ皆様に感謝申し上げ、皆様にとり より善き年でありませう、お祈り申し上げて卓話といたします。

入会式

小林辰幸会員

1964年6月 2日生まれ(47才)
株式会社 昭和精機
代表取締役
松戸市松飛台中原 286-22
ご家族は奥様・子供3人



(安井ガバナー補佐
小林辰幸新会員に
バッヂをつける)



ニコニコBOX

ガバナー補佐 安井克一様

昨年中はお世話になりました。
早いもので半期が終わりました。
今年もよろしくお祈りいたします。

松戸ロータリークラブ会長 常盤映彦様

松戸北ロータリークラブのご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

浅野 久会員

先日は 出席ありがとうございました。
清志町の事務所も出来上がりましたので 近くにおいでの際はぜひお立ち寄りください。

齋藤和實会員

妻の誕生日のお祝い有難がとうございました。

高橋 清会員

小林辰幸新会員の入会 お目でとうございます。私の息子一彦会員とも 仲良くお祈りいたします。親心かな。

小澤盛明会員

誕生日のお祝いありがとうございます。
51才になりました。1年が早いです。

WEEKLY REP  RT

国際ロータリー第2790地区第12分区
松戸北ロータリークラブ



四つのテスト

- 言行はこれに照らしてから
- 1・真実かどうか
 - 2・みんなに公平か
 - 3・好意と友情を深めるか
 - 4・みんなのためになるかどうか

第1902回 例会 (第 27 週) 2012年 1月17日(火)

国際ロータリー会長カルヤン・パネルジー
第2790地区ガバナー 山田修平
第12分区ガバナー補佐 安井克一
松戸北ロータリークラブ会長 鈴木悦朗
松戸北ロータリークラブ幹事 児山守治

例会日 - 毎週火曜日12:30より(第1例会18:30)
例会場 - 松戸市根木内249-7 北小金ポウル1F
事務所 - 松戸市根木内249-7 榊山安内
TEL/FAX - 047-344-5696 / 047-344-5696
Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp



ロータリーの実践倫理

「最もよく奉仕するものは、最もよく報われる」 He profits most who serves best.

《会報・IT・雑誌
・広報委員会》

委員長：伊師 剛迪
委員：平田 洋一

副委員長：大川 隆永
委員：高崎 卓哉

社会奉仕基金
5,010円

The Ideal of Service (奉仕の理想) にむけて夢を追いかけよう

2012年 1月17日

1月第2例会会長挨拶

会長 鈴木悦朗

皆さんこんばんは^^今日は阪神淡路大震災から17年目の日です。まず皆さんで黙禱を捧げたいと思います。(黙禱)

1995年1月17日、朝の5時46分52秒に起きた阪神淡路大震災では、震度7 死者6,434人、負傷者43,792人、全半壊約25万棟、避難者数約30万人という未曾有の大災害となりました。神戸西ロータリークラブの今井鎮雄RI元理事によれば、電話が復旧した翌日の18日には、栃木県の鹿沼ロータリークラブより電話が入り、ワゴン車に、プロパンガス・お米・ポリタンクに入った水・釜・一斗缶に入った漬物等が積み込まれ、かけつけてくれたそうです。まず御影駅の駅前で炊きだしをし、その翌日は六甲駅の前で日が暮れるまで休む間もなく、物資がつきるまで炊きだしをしてくださったそうです。その後、被災地神戸のために、日本全国各地はもとより、世界中のロータリアンより、緊急援助物資を送って下さり、またボランティアとして駆けつけてくれたといひます。国内各地はもとより、世界から8億円の義援金が寄せられました。ロータリーやその関係機関だけでなく、広く市民のボランティアグループにも資金提供することにし、あっという間にボランティアの輪が広がっていったといひます。個人個人の「何かしなければ」という思いが小さなボランティアグループを多く生み出しました。そうしたNPOの連絡協議会を作り、一つひとつのグループの働きを応援していったといひます。CATVで呼びかけ、ロータリーマークをつけたバイク15台、自転車200台で避難所を回り、まだ発展途上だった携帯電話を駆使して、今何が必要か情報収集をしたといひます。

食糧が足りるようになってからは、お年寄りにはお風呂を、こどもたちには「ロータリー子どもの家」をつくりました。震災直後からロータリーだけではなく、多くのNPO、市民グループボランティアとして活動し、あとから日本のボランティア元年といわれるように歴史的にも類もみない市民レベルの動きであったようです。誰もが地域の仲間として、互いに助け合うのは当たり前のこと、誰もがそう思い、できることから手をつけていきました。昔のようなお隣さん、相互扶助の意識が再生し、それが救援、復興のバックボーンになりました。

今井鎮雄氏は震災後、人々の善意や思いやりの中にあつて、経済効率がいいとか、これだけ儲かるとかいった発想ではなく、神戸という街の「新しい価値観の創造」そのものであったと述べています。

昨年3月の東日本大震災のときに、私もお寺として、福島県から避難されている方々を受け入れたとき、1000人以上の方々から物資が届き、60人以上の方々が「何か役に立てることがありませんか」と押し寄せたときに、本当に心が洗われる思いでした。誰もが地域の仲間として、互いに助け合うのは当たり前のこと、誰もがそう思うこと。「共に生きる」ことを説く宗教者としても、「奉仕の理想」を求めるロータリアンとして、有事のときに機能する地域社会を築いてゆきたいと願っております。本日は卓話に、松戸神社の宮司で松戸RCの常盤会長に神道についてお話していただきます。どうぞご静聴ください。

安井克一 ガバナー補佐

2月8日(水)は第12分区 IMが開催されます多数の皆様ご出席いただきたいと思ひます。会場は松戸商工会議所です。

卓話

松戸ロータリークラブ会長
常盤 映彦 様

神道の心

日本では、新年に新しい力、命をいただく、昔より新玉(新霊)の年の初めと申します。その新年を迎えられておめでたい「明けましておめでとう」といひます。

わが国ではもともとの信仰として神道というものがございます。神道とは、神の道と書くように仏教その他の宗教と違い、教えというよりは遠い遠い祖先より、親から子へ子から孫へと受け継がれ引き継がれてきた信仰です。仏教その他の宗教が伝来してきたことにより「神道(かながらの道)」と呼ぶようになりました。

小泉八雲

明治24年にイギリス人のラフカディオ・ハーン、後に「小泉八雲」と改名しましたが、八雲は出雲にかかる枕詞「八雲立つ」に因んだといひられています。八雲は西洋人として初めて出雲大社に昇殿参拝しましたが、よほどの感銘を受けたものと思ひます。その体験を紀行文『杵築』に次のように書きました。「この大気そのものの中に何かがある...うっすらと霞む山並みや妖しく青い湖面に降りそそぐ明るく澄んだ光の中に、何か神々しいものが感じられる...これが神道の感覚というものであろう。」このハーンのいう「神道の感覚」というものは、空気、水、土、風などの中に、すなわち自然の中に神を見出す感覚であり、ハーンが出雲大社に神を感じたものと思ひます。八雲が出雲で感じた以上に、日本人の中には日常的に神道の感覚というものが存在すると思ひます。

敬神生活の綱領

我々の神社は明治時代には国の信仰として、国が管理しておりました。戦後は神社本庁が包括し管理をしていません。神社本庁は敬神生活の綱領として次の事を揚げています。

神道は、天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を(かしこ)畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかかげて向かうところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

- 一 神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清き誠をもって祭祀にいそしむこと
- 一 世のため 人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
- 一 大御心(おおみこころ)をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

この事に従つて生活して頂くということが神ながらの道をいくということであると思ひます。

「人生儀礼」

お宮詣り

お子様が誕生後、男子の場合は生後31日目、女子の場合は32・33日目を目安して、産土神(生まれた土地を領有、守護する神)に里方が送る「白羽二重」の紋の付いた祝い着を付け、父方の祖母がお子様を抱き お参りすることをお宮詣りといひます。神様に氏子、その地域の神様の守護を受けるようになったという事を報告し、神様に今後の健やかな成長と幸せをお祈りするお祭りです。

(次ページにつづく)



ロータリーの奉仕哲学「超我の奉仕」 Service above self

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。